

# モデルプログラムを活用した地域の日本語学習支援団体での研修

- 香川にほんごネット研修会「子どもの日本語学習支援入門」から -

山下直子(香川にほんごネット・香川大学)

## 研修の概要

- Ⓟ 実施機関 香川にほんごネット  
 香川県内の6市3町で日本語学習支援活動を行う16の団体や支援者を結ぶネットワーク
- Ⓟ 研修名 「子どもの日本語学習支援入門」  
 講師：浜田麻里氏(京都教育大学)
- Ⓟ 実施場所 香川県交際交流協会 アイパル香川
- Ⓟ 実施日 2018年12月24日(祝)
- Ⓟ 受講者・人数 地域の日本語ボランティア、学校で日本語指導を行っている支援員、日本語教師など 40名
- Ⓟ 研修の目標 外国人児童生徒等に対する支援に関心がある地域の日本語ボランティアや実際に支援・指導に関わっているボランティアや支援員などが、子どもたちにどのような支援が必要かについて学び、今後の支援・指導にいかす。
- Ⓟ 参考にしたモデルプログラムの番号 1, 10, 11, 17, 19

## 1. 研修の実施計画

- Ⓟ 時間 150分×1回
- Ⓟ 活動の展開

目 標	形 態	内 容
1.日本語指導が必要な子どもとその背景について知る	講義	外国人児童生徒教育の考え方
2.子どもの言語学習の過程について知る	講義	認知発達と言語習得 言語能力の把握 第二言語習得のプロセス・ マルチリンガリズム
3.子どもの心身の発達について知る	講義	母語・母文化、アイデンティティ 異文化適応・アイデンティティの確立
4.子どものための活動を考え今後の活動にいかす	活動 (グループワーク)	日本語指導の理論と方法 先進地域の事例紹介・グループで活動案の作成
5.まとめ		

## 2. 受講者の参加の様子

- Ⓟ 背景 香川県においても在留外国人が増加する中で、地域の日本語教室や小中学校で日本語を母語としない子どもたちに対する支援が課題。

➡香川にほんごネットの2018年度の研修として開催。

- Ⓟ 子どもたちの日本語学習支援に実際に関わるボランティア、支援員や学校教員と、支援に関心がある地域の日本語ボランティア、日本語教師や学生といった多様な受講者が参加。



- Ⓟ ネット会員以外の参加者も含めて、例年より多い140名の受講者が研修に参加し、熱心に取り組む。

## 3. 研修の成果

### 3-1 アンケート調査

- Ⓟ 研修後に受講者にアンケートを実施し、31名が回答。
- Ⓟ 質問項目 『外国人児童生徒等教育を担う教員の養成・研修モデルプログラム開発事業報告書』「研修に関するアンケート(現職者研修・受講者用)」を利用して作成した5項目。

### 3-2 アンケート調査の結果

- Ⓟ 問い 「今回の講演会で最も参考になったことは何か」
- Ⓝ 「今日の研修内容はどれも今後の活動に役立つものだった」「自分の思い込みが多くまちがっていると気づいた」等 新たな気づきをあげる意見もあり全体的に満足度は高い。
- Ⓝ 「各グループの活動案の発表はとても参考になった」等 特に、グループワークや先進地域での事例などの具体的な例が参考になったというコメントが多くみられる。
- Ⓝ 「生活言語と学習言語の差」「臨界期」「母語保持」など、大人とは異なる子どもの言語学習の過程についても参考になったととらえている。
- ⓧ 幅広い受講者を想定して、150分の短い時間にモデルプログラムの5つの内容を取り入れたが、そのいずれもが記述で触れられる。  
それぞれのニーズを満たす結果につながったと思われる。
- Ⓟ 問い 「今後、支援に携わってみたいか」
- Ⓝ 携わっている19人、ぜひ携わってみたい3人、機会があれば携わってみたい7人、できれば携わりたくない1人(必ずしも否定的ではない) おおむね支援への希望は高い
- Ⓟ 問い 「講演会に関する意見・感想」
- Ⓝ 「グループワークを通じて他の人の意見を知ることでもできてよかった」「たくさんの同じ志をお持ちの方とお会いできよかった」 講義だけでなくグループ活動の形態も取り入れる。・・・ボランティア・支援員・学生・教員など多様な受講者が話し合う場を提供する貴重な機会。
- ⓧ モデルプログラムの内容をもとにして事務局で事前に研修内容を選定し講師と検討。・・・このプロセスにも意義  
➡幅広い参加者の希望にある程度かなうものにはなり、一定の成果をあげたといえる。

## 5. 課題

- Ⓟ 多様な受講者を対象としたことで課題も残る。
- Ⓟ 問い 「今後、外国人児童生徒等の支援や教育について、どのような研修会に参加したいと思うか」  
実践的で具体的な内容や教授法を望む声がある一方で、日本語学習支援よりも生活支援や保護者との関わりを望む声も。  
幅広い支援に関する研修への要望。
- Ⓟ 問い 「どのようなタイプの授業が効果的だと思うか」  
事例を聞く18人、授業体験13人、話し合い12人、講義形式9人、研究授業5人 さまざまなタイプに要望が分かれる。
- ⓧ 経験の有無など受講者の背景や学校と地域日本語教室等の現場の違いによってもニーズは異なるため、ニーズ別の研修も取り入れ、地域の実態に即した研修を検討していくことが今後の課題である。